

人と人の「ゴラージュ」 それが「バーボンクラブ」



上段左より宮田達夫さん、新井満さん。下段左より石阪春生さん、加藤隆久さん

■出席者（順不同・敬称略）

新井 満（作家・電通マニ

石阪 春生（画家）

加藤 隆久（生田神社宮司）

宮田 達夫（ジャーナリスト）

司会 小泉 美喜子
(本誌総編集長)

絵描き、作家、ミュージシャン、
宮司…、自称“土着民”もいれ
ば“エトランゼ”もいる。な
んとも不思議な「バーボンク
ラブ」。神戸で生まれて30年
目にメンバーのひとり、作家・
新井満さんも東京から駆けつ
けて久々の顔合わせ。何が飛
び出すやら…

それぞれの世界で育っていく

—バー・ボン・クラブ発足のきっかけは?

宮田 75年ごろ、モダンな街、

神戸に社交場があまり無かった。「バー・ボンでも飲みながら」という場所を作つたらどうだ

うと言つたら、たまたま、卵から首を出したばかり、まだお尻に殻をくつつけている

ような:若くて情熱に燃えた錚々たるメンバーが集まつて

きたというのがきっかけかな。新井 ネーミングが良かつたね。ウイスキーではつまら

いし、ビールでもダメ。

宮田 当時、バー・ボンは珍しくて時代の先端を行くという感じだつたからね。

—新井満さんは、どういういきさつでメンバーに加わるこ

とになつたのですか。

新井 組曲「月山」を出したころだから、まだ二十代だったかな。今岡頌子さんがモダンスで「月山」を取り上げるという時に宮田さんが取材に来られたんです。

石阪 そのころから一業種一人で、自然と人が集まつてき

ましたね。

宮田 それにも、酒を全く飲まない加藤宮司がメンバ

ーにいるのも不思議(笑)。

加藤 生田神社は神戸の酒造り発祥の地。いわゆる「灘五郷」の原点は生田にある。そ

んな所にいる私が酒を飲んでいたら、どっぷり浸つて今ごろはもうこの世に居なかつた

んじゃないかな(笑)。私にとつてバー・ボン・クラブは、清水の中に酒を一滴垂らしても

らつているようなものですよ。どこに集まつて、どんなことを話し合つていたのですか。

宮田 初めは必ず誰かの家に集まり、お料理を作つてバー・ボンだけを飲むということになつていました。話すことといえば、とりとめもないことばかりですよ。まあ、お互いのけなし合い(笑)。けれど誹謗、中傷の類じやないから害がない。かえつて、それが

活力になり、それぞれの世界で育つていつたんじゃないかな。

な。

私は小曾根くん(メンバ

の小曾根実さん)もすごいと

思います。言つてみれば資産家の「ほんぽん」なんだけど、音楽をあそこまでやり続けたことがすごい。そして、息子さんは今や世界的なミュージシャンですから。

加藤 満さんはまた、本を出したんだね。自由訳「般若心経」(※)、神戸新聞で取り上げられているのを読みました。すばらしい。

石阪 満さんは不思議人間。天から神様が音楽、詩、小説

阪さんの作品はまだまだ繊細な感じだつたけど、重厚さを増してきて、今や大画伯!

加藤 神戸市に50点の絵を寄贈したそうじゃないですか。一億円相当だつて!石阪さんもいよいよ人生の集大成だね。震災の時には生田神社にも絵をいただきましたが…。

石阪 震災直後に加藤宮司が電話してきて「無事か?!良かつた。生田の神さまのおかげ。感謝するよう!」ですからね。寄贈しないわけにいかない:(笑)。

“エトランゼ”を温かく受け入れる街・神戸

時代でしたね。

—バー・ボン・クラブにはテ・マ・ソ・ン・グもありました。私も覚えています。

加藤 「バー・ボン・クラブのBはビューティフルのB、バー・ボン・クラブのBはボーライズのB、ビューティフルボーライズ・クラブ…」。

石阪 なかなかシャレた、きれいな曲想だったね。

宮田 作詞・作曲、新井満。

新井 えっ！ 僕がそれ、書いたの？

宮田 そうですよ！
当時、神戸で電通に勤務していた満さんが、職場から電話で歌詞を伝えてきた。あの時のこと、

今でもよく覚えています。そ

して二番の歌詞が「バー・ボン・クラブのBはボールズのB…」。

新井 そりや名作だ！（笑）

多分、昼休みに5分くらいで

新井 バー・ボン・クラブは不思議人間の集まり。いろいろな刺激を受けましたよ。

宮田 そんな歌が自然とできてしまふような雰囲気がある

石阪 確かに、いい時代の神戸だつたね。ひとつ前の世代から受け継いで、我々の時代に具現化した。

宮田 バー・ボンに神戸が浸み込むように、当時の満さんの頭の中に神戸が浸み込んでいたんだろうな。

新井 とんでもない。僕は浸み込むどころか、まだ訳が分からぬ状態でしたよ。友人も親戚縁者もいない神戸に突然やつて来たわけですから。

でも、神戸は僕みたいな「よそ者」を温かく迎えてくれる奥深い懐を持つた街だなと思いましたね。僕にとって神戸は“第二のふるさと”。バー・ボン・クラブはその象徴です。

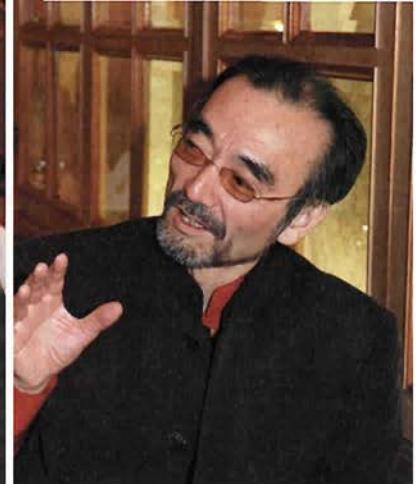
宮田 外国人がたくさん住んでいるからね。

新井 もしかすると、みんなエトランゼなのかもしれない。

石阪 エトランゼが創り上げた街だからこそ後発のエトランゼを温かく迎えることができるんでしよう。神戸や兵庫は、せいぜいは百五十年くらいの歴史ですから、私なんかは神戸の中ではどちらかとい



加藤隆久さん



新井満さん

うと土着人ですが…。

新井 石阪さんのような先住民族が後から来るエトランゼを温かく迎えてくれる街が神戸。

石阪 これは神戸のDNA。

私たちの先祖が開けてましたから、その影響を受けています。先祖が閉鎖的じやあ、で

きないことです。

“花”のある時代に生まれ、育つたバー・ボンクラブ

—こんなふうに30年も続いているのは何故だと思いますか。

石阪 大き過ぎない街だから

できた。神戸のローカリティ

ーが育てたんだろうね。

宮田 そういう土壤があつて、知的水準が同じメンバーが集まつた。共通語が通じるから、

職種が違つても分かり合える。メンバー全員

がワンテーブルに座れる人数といふのも良かつたのかな。

新井 みんな好奇心のかたまりのような人はかりだから続いているんでしようね。

—ポートピア81や神戸ユニバーサル85開催など、パワーのある

いい時代でしたね。

加藤 「株式会社神戸市」

とまで言われて、全国の他の地方自治体から羨望の眼差しで見られていたころ。活気があつて、東門街などは人や車が渦を巻いていました。私は地鎮祭の御

祓いで大忙しだったしね（笑）。

石阪 満さんも、あの時代の神戸だからものを創ることができたのだろうし、その後の土壤を築くことができたん

でしょうね。

新井 僕はパワーが生まれる源はコラージュだと思っています。元々は芸術の世界で、

全く関係のないものを同じ平面に並べて別のものを創り出す手法。異質なものが出会つて火花を散らし、想定外のものが出来上がる。

神戸はエトランゼたちのコラージュだし、バー・ボンクラブは人間関係のコラージュ。僕がバー・ボンクラブで石阪さんと出会つたのがコラージュ、その縁で「神戸っ子」に出会つた、「アルファベットアベニューワーク」を連載したのもコラージュ。そのコラージュがなければ、ものを書くことはなかつたでしょうね。だいたい、ここに画家と宮司が相対して座つて話しているのが、まさにコラージュでしょ（笑）。

宮田 すべてに“花”のある時代でした。ポートピア81は地方博の第一号。ごちや混ぜ

石阪春生さん

宮田達夫さん





草創期のバーボンクラブ（ポートピア81のサントリー館で）

“おでん文化”的関西だから
できたらんじやないかな。

新井 “おでん文化”も“コ
ラージュ”（笑）

宮田 何やかんやあつても、「い
ざ」となると、こうやつて集
まつてきて、話が広がってい
く。これがバーボンクラブな
んですよ。

充実した“今”を楽しむ

—最後に、これからバーボ
ンクラブについてお話しくだ
さい。

宮田 マンネリは永遠の続き
である。みんなが存在する
限り、バーボンクラブも存在
する。

石阪 偉大なるマンネリだね。

加藤 今では、東京やハワイ
（？）などバラバラになつて
それぞれに忙しい日々を送つ
ています。神戸に住むメンバ
ーは顔を会わせる機会もある
ものの、残念なことに神戸の
人間は仕切りがヘタ。神戸っ
子の「五線紙の街」の連載が
あって、この座談会も成立し
たわけだし、バーボンクラブ
存続のためにこれからも宮田
さんに頑張つてもらいたいな



30年目に集ったメンバー。左から新井満、石阪春生、中西秀吾(手前)(デザイナー)、若柳吉金吾(奥)(邦舞家)、小曾根実(ミュージシャン)、松本幸三(テノール歌手)、西正興(株式会社神戸スイーツポート相談役)、筒井康隆(作家)、加藤隆久、宮田達夫。他にも新谷透記(彫刻家)、故松井一郎(元神戸文化ホール館長)、故長鶴隆(元神戸地下街株式会社副社長)、故竹内光広(写真家)、故檜隈四郎(元兵庫県副知事)がバーボンクラブの主なメンバー(敬称略)

あ。

新井 神戸とバーボンクラブにはいろいろな思い出がありますが、一番何を学んだかと いうと人生の楽しみ方。明日 でも昨日でもない“今”を樂 しむ。みんな、実に遊び方が うまいですからね。

宮田 それは、これから的是ニア世代に学んでほしいことです。

加藤　　”今”つまり現世を充実させて楽しくということは神道につながるもので…

新井 いよいよ神道の極意に達した（笑）。

な： そろそろ他のメンバー
も到着するころ。 続きはバ
ボンを飲みながらというのは

いかがですか？

“Going My Way”
ならぬ “強引 My Way”
な神戸っ子たちの長い夜が、
パーボンとともに更けていつ
た。

(05年12月26日レストランモーヴにて)

※新井満著「自由訳『般若心経』」
朝日新聞社 一〇五〇円

■音楽インタビュー

音楽で平和な世界をつくりたい

池宮正信（ピアニスト）

阪神・淡路大震災で倒壊した「神戸栄光教会」は04年10月に、ほぼ元のスタイルを復元して蘇った。これまでもチャリティーコンサートに出演するなど再建に尽力してきたピアニストの池宮正信さん。同教会でのクリスマスチャリティーコンサート「母からの贈りもの」（05年12月3日）を終えた池宮さんに、今までの活動、そしてこれからについてお話をいただいた。

私への「母からの贈りもの」は無私の愛
——再建された神戸栄光教会でのコンサートいかがでしたか。

池宮 クリスマスコンサートにはぴったりの雰囲気で、とても気持ち良く演奏できました。教会再建のためのチャリティーコンサートにはラグタイムオーケストラとソロ、合わせて5度にわたり出演させていただきましたので、再建されたすばらしい教会を見て本当にうれしく思っています。



「人と人の心をつなげ、平和な世界をつくりたい。音楽はそのひとつの手段です」と熱く語る池宮さん（ホテルオークラ神戸にて）

—今回のコンサートは「母からの贈りもの」ということですが…。

池宮 私の母は昨年、80歳で急に天国へ行つてしましました。せっかくこの地球に生かされている命。少しでも良いことをしたい。母は自分の行動でそれを伝えてくれました。母が教えてくれた見返りを求める無私の愛の尊さは私にとって「母からの贈りもの」。人生の指針になつています。生きている間には母のありがたさを感じないものですが、今の私、ピアニストとしての私が在るのもすべて母のおかげです。そんな思いをこめて母が好きだった曲を盛り込んだ演奏をさせていただきました。

—生まれ育つたのは京都ですか。

池宮 生まれたのは奉天です。母方の祖父・渡辺守重は同志社大学神学部を卒業後、奉天で教会を創設。戦時中は帝国主義に反対し、アメリカからヘレン・ケラーを招き満州中を回つたというほどですから、かなり睨まれたようですが、教会の信者が非常に多くて、軍もどうすることもできなかつたということです。母は奉天で育ち、寄宿生活をしながら神戸女学院に通つていました。英語がペラペラでしたから、ヘレン・ケラーの通訳もしたということです。そこへ、京都大学で博士号を取ろうとしていた時に召集された父・池宮正行が行き、母と出会い、奉天の牧師館で私が生まれました。

父は戦後シベリアに抑留されましたが、何とか家族全員で引き揚げて来ることができました。母は私を首からぶら下げて帰つて来たといいますから大変な苦労だったと思います。

—奉天のことを覚えていらっしゃいますか。

池宮 ロシア革命の亡命者が多く住み、ロシア正教の教会もあるとてもエキゾチックな街だつたようです。はつきりした記憶はないのですが、そこで経験した戦争の怖さ、難民の苦しさは感覚として体に残っています。

—アメリカへはいつ行かれたのですか。

池宮 高校一年の時、京都大学教授だった父がカンザス州立大学から客員教授で招かれ、家族で渡米しました。家族が帰国してからも私だけが残り、それ以来アメリカで暮らしています。

宗教の根本にあるものはすべて同じ

池宮 そうですね。その後の人生もクリスチヤンの縁で導かれているように思います。祖父の親友だった清水安三さんが創立した桜美林大学のオリジナルになるオハイオ州のオーベリン大学に、私が何も知らずに入学したことも不思議な話です。元町ミュージッククワイーカや神戸ジャズストリートに出演させていただいているのも、今回の神戸栄光教会でのコンサートもすべてそうですから。

—禅寺で修行されたこともあるとか。

池宮 アメリカへ行つてから私は禅宗に非常に興味を持ちました。当時（70年ごろ）盛んだった座禅をするようになり、正式に習いたいと日本へ帰り、京都の竜安寺大珠院の盛永宗興老師に指導いただきました。そして老師がアメリカでスタートさせた禅寺・月泉院で10年間、

雲水生活をしました。その間はピアノもやめていました。

—10年は長いですねえ。

池宮 早朝から座禅三昧の厳しい修行ですから時間がアップという間に過ぎ、気付いたら10年が経っていたという感じです。そこで私が最終的に分かつたことは、仏教、神道、キリスト教も根本は同じということ。古くから宗教戦争で「俺が正しい」「お前は間違っている」と争つてきましたが、無駄なこと。違いを指摘するのではなく、共通点を見付けてお互いを認め合うことが大切だということです。

—また音楽の道に戻られたのは?

池宮 これも、たまたま寺へ座禅を組みに来た有名音楽家のフルートと合わせて演奏をしたんですけど、これがメチャクチャおもしろくて…。「また音楽をやりたい」という気持ちになりました。

—ところで、奥さま・とも子さんとはどこで?

池宮 彼女が東京に居たころ友だちに誘われて私のコンサートを見に来ました。「おもしろいわね」なんて思った程度だったようですが、大阪でもまた誘われて見に来たそうです。そして

浜松のキリスト教系の看護学校で教えていたと

きにポスターを見て「この人知ってるわ」と思つてコンサートに来てくれました。その時、私がステージから「アメリカのメイン州でコンサートをやっています。きれいな所ですから是非来てください」と話したのを聞いて、旅行がて

らやつて来たのです。

これも不思議なご縁です(笑)。

「気が付けば創設者に
「アーカディ音楽祭」

—メイン州でのコンサートというのは、80年に池宮さんが創立された「アーカディ音楽祭」ですね。

池宮 禅寺でフルートと一緒に演奏するのがあり楽しくて、そのうち演奏旅行にも同行するようになりました。美しいクラシック曲を地元の人々に聴いてもらいたいとホームコンサートを開いたのですが、これが好評。手狭になりました。干し草の上に座つて聴いてもらっていたのですが、これがまた好評で(笑)、牛小屋も“ギューギューグル”になつてきて、牛さんにも出てもらうことになりました(笑)。「それならぜひ、教会で」と牧師さんからお話しをいただきました。そのうちに「チケットを売つてはどうか?」という話しが持ち上がり、すばらしい音楽家を呼ぶための資金になるならと始めたものが、気が付けば創立者になつてきました。音楽監督を24年間務めさせていただき、昨年リタイアしました。

—今や全米有数の音楽祭ですね。

池宮 国や宗教を超えてみんなで音楽を楽しむお祭りです。当初はメイン州の小さな街を回り、今までクラシックに縁が無かつた人たちにも楽しんでもらつてきましたが、今は4つの街でそれぞれ実行委員会ができ、街総出でサポートをいただいています。私が演奏旅行で出会った世界中のすばらしい演奏家のみなさんに「いい所ですよ、避暑を兼ねて来てください」と少ない

ギヤラで出演をお願いしています。

ニューヨークフィルやボストンフィル、日本フィルのメンバー、ロシアや日本の少年少女合唱団ほか世界各国から、また日本の三味線や尺八、琴の演奏者などにも来ていただきました。そして、ホームステイをしてもらっています。地元の人たちと世界中から来る人たち、特に子どもたちにとつてはすばらしい交流の場になっています。

私は人と人の心がつながり、最終的に世界が平和に導かれることを願っています。その一つの手段が音楽だと思います。

—今後はどのような活動をお考えですか。



神戸栄光教会でピアノ演奏をする池宮さん

世界中に資源を漁りに行つたり戦争を仕掛けたり…。無駄が多すぎて環境破壊が当たり前のようになつてゐる結果だと思います。それを自分たちから直していきたいと、有機農園を始め、地元の人たちと手をつなぎながら自給自足に近い無駄の無い生活をしています。また、経済の落ち込みで下層階級の人々が辛い状況に置かれています。

ニューヨークでは「マザーテレサホーム」でボランティアをさせていただいていましたが、メーン州でも何かできないかと「私を役に立つことにお使いください」とお祈りしていたところ、ラジオでホームレスセンターのシスターが資金不足を涙ながらに訴えているのを偶然耳にしました。これこそ神様からのメッセージだと思い、実際に現地を訪ねシスターたちが貧しい生活を送りながらホームレスの人たちに尽くしている姿を見て心打たれ、早速チャリティーコンサートを開き収益を寄付することができました。神様の導きでできたこと。本当にありがとうございます。

これからも地球人として世界で活躍させていただきながら、人々のハートをつなげる役に立つればいいなと思っています。

池宮正信(いけみやまさのぶ)

1946年生まれ。京都市洛星高校在学中に渡米、オーベリィ音楽院ピアノ科を主席で卒業しインディアナ大学大学院で最優秀学生として修士号を取得。ピアニスト、チェンバリスト、室内楽コンクール審査員としての活動はアメリカ、カナダ、中南米、ロシア、ヨーロッパ、日本各地に及ぶ。80年米国メーン州にて自ら創立したアーカディ音楽祭の名譽音楽監督。アメリカ音楽、特に19世紀後半、自由を得た黒人たちの間から生まれたラグタイムのピアニストとしても名高い。中南米の内戦で傷ついた人々の施設建設チャリティー・コンサート実施やニューヨークのマザーテレサホーム支援など慈善活動にも力を入れてい

神戸っ子必見!! KOBE初のパーティイベント

「PARTY CITY KOBE」開催!!

開催期間—2006年2月中旬～3月末

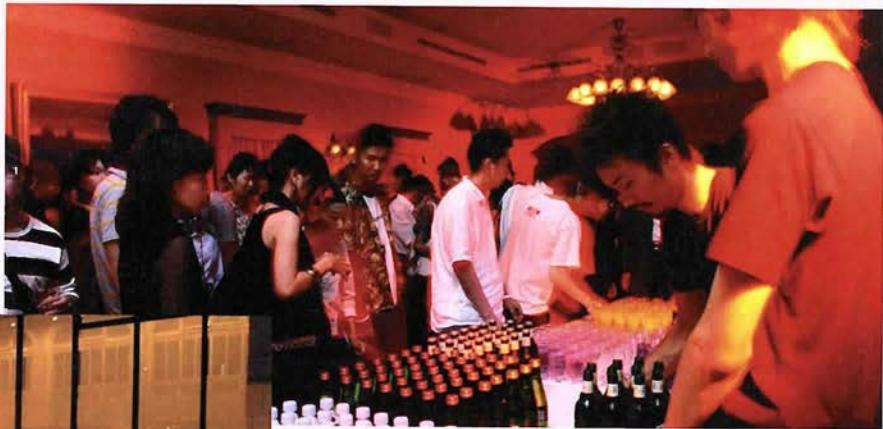
「PARTY CITY KOBE」とは、開催期間にあわせて開かれる様々なパーティに行ってみませんか?
というイベントのこと。今回、神戸で初めて実施されることに!

神戸ならではの”ハイセンスな大人のパーティ”に貴女も出かけてみませんか?

開催されるパーティの詳細はまもなく発表!お楽しみに!!



神戸で素敵な
パーティNightを



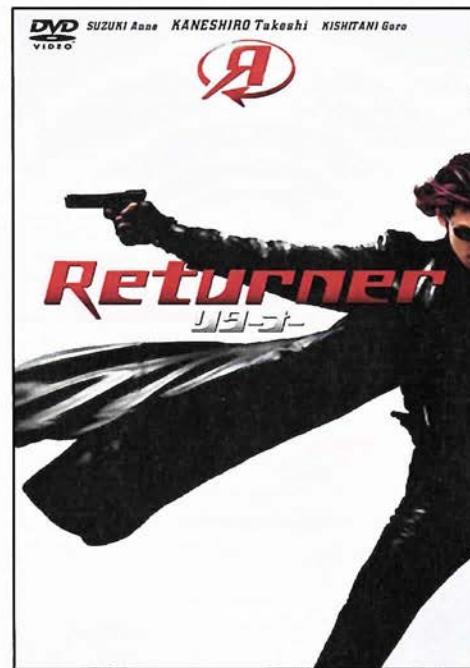
参加
パーティ募集中!!



主催(財)神戸ファッショントリニティ
後援(神戸市)
企画・運営(株)ドリームアンドモア
お問い合わせ
(株)ドリームアンドモア
078-327-2155



派手なカーチェイスに自動車爆破や銃撃戦。
迫力満点のシーンはまるでハリウッド並み!?



映画「リターナー」

「リターナー スタンダード・エディション」
発売元 東芝エンターテイメント株式会社
販売元 東芝エンターテイメント株式会社 /
アミューズメント・エントertainment株式会社 /
税込価格: 5040円

©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/
SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.

昨年末に発表された報知映画賞で最優秀作品に選ばれ、日本アカデミー賞の優秀作品にも選ばれている『ALWAYS 3丁目の夕日』。本当に心温まる作品で、昭和30年代をリアルタイムで経験した私は特に懐かしい思いで観ました。運良く、昨年、撮影所のスタジオセットを見せて頂く機会があつたのですが、本当に凝ついて、もつとそのディテールのすばらしさをスクリーンで見せてほしかったほどです。でも、何より嬉しかったのは、当時をまつたく知らな

い、昭和39年生まれの山崎貴監督がこの作品を演出したこと。というのも、山崎監督といえば、SFXを駆使した映画『ジュブナイル』や『リターナー』で知られており、私の中では、「かつこい監督」といふ作品を撮る若い監督」が強かつたのです。

その山崎監督が、こんなにほのぼのした作品も演出するとは…。感動しました。最初にこの作品を制作するというがあつたのですが、本当に凝ついて、もつとそのディテールのすばらしさをスクリーンで見せてほしかったほどです。でも、何より嬉しかったのは、当時をまつたく知らない、昭和39年生まれの山崎貴監督がこの作品を演出したこと。というのも、山崎監督といえば、SFXを駆使した映画『ジュブナイル』や『リターナー』で知られており、私は、當時をまつたく知らなかつたのです。でも、何より嬉しかったのは、当時をまつたく知らな

い、昭和39年生まれの山崎貴監督がこの作品を演出したこと。というのも、山崎監督といえば、SFXを駆使した映画『ジュブナイル』や『リターナー』で知られており、私は、當時をまつたく知らなかつたのです。

そんな『ALWAYS 3丁目の夕日』を観たら、山崎監督の前作、『リターナー』を神戸で撮影したときのことを思い出しました。『リターナー』は、依頼者からの情報を使もとに闇の取引現場に潜入し、金を奪還、そしてその金を依頼者に送り戻す仕事をしている凄腕の「リターナー」ミヤモト（金城武）の話。ある日、彼は潜入していた闇取引の現場で、かつて自分の親友を殺した溝口（岸谷五朗）と再会します。怒りをあらわにして復讐を誓うミヤモト。

その山崎監督が、こんなにほのぼのした作品も演出するのですが、昭和30年代の東京となると、なかなか神戸にもほのかの街にもその風景は残つていません。スタジオにセットを組み、CGを駆使して当時の街並みを再現することになりました。つまり、VFXが得意な山崎監督だからこそでできた作品だったのですね。

そんな『ALWAYS 3丁目の夕日』を観たら、山崎監督の前作、『リターナー』を神戸で撮影したときのこと

を思い出しました。『リターナー』は、依頼者からの情報を使もとに闇の取引現場に潜入し、金を奪還、そしてその金を依頼者に送り戻す仕事をしている凄腕の「リターナー」ミヤモト（金城武）の話。ある日、彼は潜入していた闇取引の現場で、かつて自分の親友を殺した溝口（岸谷五朗）と再会します。怒りをあらわにして復讐を誓うミヤモト。

ところが、溝口に逃げられてしまします。そこへ不思議な少女、ミリ（鈴木杏）がいきなり現れ、「重大な仕事」を手伝つて欲しいとミヤモトに頼んできたのでした…。

この作品にかかわるようになつたのは、2001年の初夏。ロボットという東京の制作会社から映画『Returner (リターナー)』のロケに関する相談がありました。ロボットは、「踊る大捜査線 THE MOVIE」や『海猿』、そして『交渉人 真下正義』などを制作している会社。打診の内容は、「海上に浮かぶオイルリグの内部のような撮影場所がないか?」というものでした。結局、市内では見つけることができなかつたのですが、「姫路なら沿岸部に大規模なプラントがあるからイメージに近い場所があるかも」と問い合わせてみたところ、制作者のイメージ通りの場所が見つかりました。

それから神戸ロケの話も具体的になり、最終的には次の3つのシーンが神戸で撮影されました。①可能な限り普通



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/
SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/
SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.



ワイヤーアークとVFXを駆使して描かれたSFアクション・ムービー。

レニー・クラヴィッツが主題歌を提供したことでも話題を呼びました。

爆破シーンのロケ当日は神戸市消防局の方々にも待機してもらい、安全には万全を期しました。

の道路上でのカーチェイスと自動車爆破②研究所のような施設での自動車爆破③着岸した貨物船上での夜間撮影と夜間空撮（約1週間の撮影）

カーチェイスは、主役の金

城武さんと鈴木杏さんがバイクで逃げ、それを敵が車で追い、捕まると思つた瞬間、車が爆破するというシーンです。広い空き地なら撮影も考えられます。が、監督のリクエストは背景に背の高いビルがある公道。なかなか許可が下りる道が見つからなかつたのですが、最終的にはカーチェイスの部分を神戸港の第4突堤へ向かう公道で、爆破シーンをポートアイランドの第2期にある公道で撮影することができました。フィルムオフィスとしても初めての経験で、当日はドキドキ。結果は、日本映画ではほとんど見られないスピードで派手なカーチェイスを撮ることができました。

研究所のような施設については、西区の神戸複合産業団地内で撮影。ワイヤーで車を2台吊り、爆破させてから地面上に落とすという迫力満点の

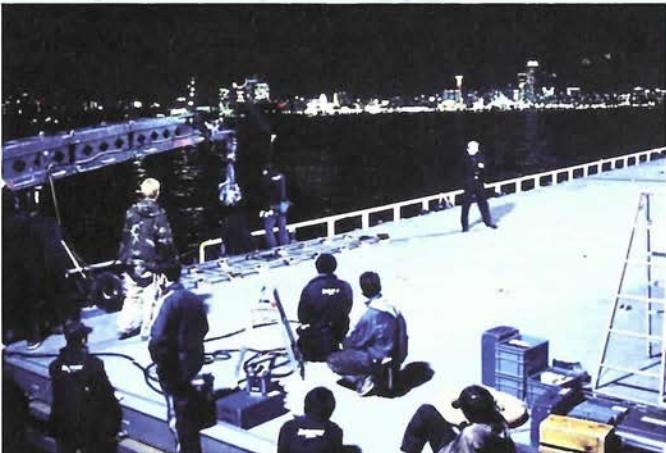


©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/
SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.

ミヤモト(金城武)とミリ(鈴木杏)の前に立ちはだかる殺人マシーン・溝口役には悪役初挑戦の岸谷五朗さんが!



夜の撮影が多かった神戸ロケ。日中、ホテルで待機していた金城武さんのお友達はもっぱらテレビゲームだったとか?!



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/
SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.

シーンを撮ることができました。貨物船とヘリコプターの銃撃戦については、当時はまだガントリークレーンが並んでいたポートアイランドの西の岸壁に貨物船を着けて撮影。岸谷五朗さんを乗せたヘリコプターとカメラを載せたヘリコプターを夜間に飛ばして撮ることに成功しました。撮影は初冬の深夜だったのですが、私たちもキャスト・スタッフ50人分の豚汁を炊き出ししてとても喜んで頂きました。

このように、神戸と姫路が協力して撮影が実現した「リターナー」。その完成度は、ハリウッドの映画会社にも評価され、なんとアメリカでも公開されました。私たちが支援した日本映画が海の向こうでも見てもらえる。この仕事に誇りを感じた瞬間でした。

田中まこ／1955年大阪生まれ。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で2年学んだあと国際基督教大学編入・卒業。司会・DJ・通訳・翻訳などを手がける。2000年9月より神戸フィルムオフィス代表。

神戸フィルムオフィス
神戸市中央区港島中町6-9-1
神戸国際観光コンベンション協会内
☎ 078-303-2021
<http://www.kobe-film.jp>